

「若者に聞いてほしい！看護師と助産師のリアルトーク

～群馬の若者の性教育実践報告～

県内病院助産師 唐沢美鈴さん
県内病院看護師 (当会理事) 星野貴泰さん

本研修会は 3 月 11 日に開催したことに伴い、東日本大震災に対する黙祷を行ってから研修を開始しました。講師は唐沢美鈴さんと星野貴泰さんでした。お二人が若者の本音をリアルトークするというテーマで、ラジオ番組のように対話する雰囲気での研修が進行しました。当日は約 40 名が研修に参加され、県内だけでなく県外からの参加者もいました。

<講師の紹介>

唐沢美鈴さんは、県内病院勤務助産師で普段は病院内では出産場面に関わり、分娩介助の業務を行っています。スライドでは生まれたばかりのかわいい赤ちゃんを抱く姿が紹介されました。また、都内で同世代を中心に実践されている PILCON の活動が紹介されました。

※PILCON：望まない妊娠や性感染症の予防啓発と健康に生きるための性の健康に関する正しい知識の普及に関する活動を行ったり、ライフプランとキャリア実現に関する支援を行ったりし、男女共同参画社会形成の促進を図っています。(PILCON の HP 参考)

星野貴泰さんは、県内病院勤務看護師で手術室勤務の日常業務を実践する傍ら、学校側からの依頼で性教育及び AIDS 予防教育を実践されています。星野さんが実施する性教育の講演は、星野さんと関係者のご縁と星野さんの性教育に対する熱き思いにより、県内だけでなく県外からも問い合わせがある反響ぶりです。

講師の二人の共同活動として、横浜市で開催された「AIDS 文化フォーラム in 横浜」の 3 日間の研修が紹介されました。フォーラムの 1 セクションで本研修と同様に若者の性に関するリアルトークを行った実績があり、フォーラムに参加した 20～50 代の幅広い年齢層からの好評な感想が紹介されました。

<リアルトークの内容>

○思春期の思い出

講師 2 人にとっては、高校時代は 10 年前のことでした。講師二人が経験した初デート、恋愛経験について話していただきました。そして、ちょうど 2006 年は高校生の性交率がデータ上ピークに達した時期でした。当時、友達からコンドームをつけなかった性交渉の事例を相談されたり、最近の少女漫画では、実写化するとアダルトビデオになってしまうような内容で、書店に一般書籍として置かれている等、高校生が直面する性に関する現状を思春期と近い年代の視点から解説されました。

講師のお二人とも恋愛を経験して間もない頃は、お付き合いした相手と恋愛に対する進め方のペースの違いや相手の気持ちを考えていなかったことなど、当時の恋愛経験について振り返りながら話されました。このような経験を基に、男女が長く付き合っていくために大切なことを、聴講者や若い世代に語り伝えておられました。

○避妊について

産婦人科医・日本家族計画協会会長の北村邦夫先生の「いつも避妊している・避妊をしたりしなかったりしている人の現在の主な避妊法」のデータによると、避妊法として「コ

ンドーム：86.9%」「膣外射精：14.8%」でありました。正しくない避妊法である膣外射精としては高い数字との感想をお伝えされました。コンドームを購入する場所としてドラッグストア、コンビニが挙げられました。また、男性がコンドーム未着用理由として、「面倒」、「高い」、「密着感ない」、「うまく使えない」が挙げられました。「面倒」の理由に対して「男性は良いかもしれないけど、女性は怖いですよ。」、「うまく使えない」の理由に対して「練習してほしい」と講師からコメントがありました。女性の中には、初めての性交渉の相手がコンドーム未着用であると、性交渉時はコンドーム未着用が当たり前であったと認識するという事例も報告されました。これに対して、講師からは「女性が自分の身を守るために気をつけてもらいたい」と指摘がありました。また、避妊は男性まかせのコンドーム着用だけにたよるのではなく、経口避妊薬の服薬によって女性も主体的に避妊に関わることができることを紹介されました。経口避妊薬のメリットとして、生理のタイミングをコントロールできることや、コンドームとの併用で99.9%の避妊ができることを挙げてもらいました。

さらには、性感染症についての現状について「高校生のクラミジア感染症の蔓延状況と予防対策」によると、性交渉経験があると男性は6.7%が、女性は13.1%がクラミジアに感染しているデータを示されました。クラミジアの感染で将来的には不妊の危険を背負うことになること、治療はパートナーで実施する必要性を強調されたこと、パートナーが変わったタイミングで性病検査を行ってから性交渉を行うことで感染のリスクを減らすことにつながるなどが挙げられました。

<今後の課題>

講師のお二人は今後の課題として以下のことを話してくださいました。

星野さん「自分の講演を聞いた若者が自分のことだと捉えてもらえることが課題です。講演をしても『良い話だけど、自分には関係ない』との感想などいただくと講演内容をもっと工夫しないといけないと思います。」

唐沢さん「(恋愛や避妊などに関することに対して)もっと早い段階で相談や支援に関われたらと思います。」

<その他>

質問では講師への講演依頼などのリクエストがありました。講師へ講演依頼する場合は直接講師個人へのお申し込みで対応します。

<研修会を終えて>

会長の挨拶より「自分たちだからできること、私だからできることはなんだろうかと考えさせられました。」との言葉がありました。20代のお二人の講師は、思春期に経験した貴重な体験を出し惜しむことなくご提供してくださいました。講師のお二人から溢れ出す熱い思いとデータや事例に基づいた解説を聞いて、日々の業務や生活の中で、私たち会員や研修参加者が実践できる思春期への支援について大きなヒントと課題をいただきました。

